



目次 ◆ 診療科紹介(耳鼻咽喉科) ◆ ワクチン接種で病気を予防しよう  
◆ 地域医療懇話会を開催

## 診療科紹介【耳鼻咽喉科】

耳鼻咽喉科医長 竹林 宏記

近年、アレルギー性疾患患者の増加が問題となっています。スギ花粉症等の罹患率の上昇、アレルギー性鼻炎の低年齢化、黄砂によるアレルギー症状の遅延・悪化など、さまざまです。アレルギー性鼻炎の3大症状とはくしゃみ・水溶性鼻汁・鼻閉ですが、その他咳嗽、急性副鼻腔炎、慢性副鼻腔炎の急性増悪、嗅覚障害などが起こります。

アレルギー性鼻炎の基本的な治療は初期治療と思われがちですが、僕は予防と考えています。まず、採血でR I S T / R A S Tを測定し適切な時期に、適切な投薬が効果的です。ただ保存的治療で効果不十分な症例には外科的な治療を勧めております。大きく分ければ、鼻閉を軽減する下鼻甲介手術、くしゃみ・水溶性鼻汁を軽減する後鼻神経遮断術です。当院では後者は施行しておらず、今回は前者の治療を説明させていただきます。

下鼻甲介手術には、**粘膜上を処理する手技・粘膜下を処理する手技・下鼻甲介骨を処理する手技**にわかれます。粘膜上を処理する方法は炭酸ガスレーザー、YAGレーザー、KTPレーザーなどによるレーザー療法、アルゴンプラズマによる電気凝固療法、粘膜下を処理する高周波凝固療法(Celon<sup>®</sup>)などです。これらの治療の最大のメリットは侵襲が少なく外来で可能だということです。粘膜上を処理する手技のデメリットは、基本的に鼻閉しか効果なく、鼻内に痂皮が付きやすく、効果が長続きしないことです。粘膜下を処理する手技のデメリットは浸潤麻酔を使用するリスクと、再手術の際にはテクニックを要することです。また下鼻甲介骨切除は将来的に委縮性鼻炎につながることも多く、施行していません。

それらのことをふまえて当院においては、**粘膜下組織をマイクロデブリッター(IPC<sup>®</sup>)にて削除する手技**をおこなっております。レーザー療法や電気凝固療法に比べ出血のリスクがあるため**短期入院(1~2日)が必要**です。メリットは、

- 1: 下鼻甲介粘膜下組織を削除(後鼻神経の枝も処理)するため、**鼻閉のみならず鼻汁やくしゃみも上記療法よりは効果があること。**
- 2: **効果が長期間継続**すること(経験上5~6年)。
- 3: **レーザー療法や電気凝固療法効果不十分な症例にも適応がある**ことです。

治療の流れとしては、当日朝に入院していただき午後より手術場で施行いたします。前投薬等は必要ありません。鼻内に麻酔のガーゼを挿入し(30分程留置)、片鼻5分ほどの時間で終了します。出血のことがあるため当日は軽いパッキングをさせていただき、翌日抜去し出血がなければ退院していただきます。術後、鼻内の上皮化がすすむまでの期間(約2週間必要)は、かえって症状が悪化する可能性があります。

適応症例がありましたら御紹介のほどよろしくお願い致します。



## 第103回健康教室

### ちょっと気になるワクチンのお話 ～ ワクチン接種で病気を予防しよう ～

薬局 仲田 美智代

近年、肺炎球菌ワクチンやb型インフルエンザ菌(ヒブ)ワクチン、子宮頸がんワクチン、ロタウイルスワクチンなど、新しいワクチンが次々と登場しています。今回はほんの一部ですが、そんなワクチンたちにスポットをあてていきたいと思います。まずは、ワクチン全般のお話から・・・。



#### ワクチンとは？

人間が本来持っている「病原体に対する抵抗力(免疫)」のシステムを利用して、これらのさまざまな感染症に対する「免疫」をあらかじめ作らせておく製剤。ワクチンは大きく分けて、「生ワクチン」と「不活化ワクチン」と「トキソイド」があります。

生ワクチン：生きているウイルスや細菌の毒性・発病力を弱めてつくったワクチン。ウイルスや細菌が体内で増殖するので、接種後しばらくしてからの発熱や発疹など、その病気の症状が軽くでてくる場合があります。

〈主な生ワクチン〉

麻疹(はしか)・風しん、おたふくかぜ、ポリオ(平成24年8月まで)、BCG、水痘(水ぼうそう)、ロタウイルスなど。

次に違う種類のワクチンを接種する場合は27日以上間隔をあけます。

不活化ワクチン：ホルマリンや紫外線などで処理をし、感染力や毒力をなくした病原体もしくはその成分でつくったワクチン。

〈主な不活化ワクチン〉

日本脳炎、DPT(ジフテリア・百日咳・破傷風)三種混合、インフルエンザ、b型インフルエンザ菌(ヒブ)、肺炎球菌、A型肝炎、B型肝炎、子宮頸がん(ヒトパピローマウイルス)など。

次に違う種類のワクチンを接種する場合は6日以上間隔をあけます。

トキソイド：細菌のもつ毒素を取り出し、毒性をなくして免疫原性だけをのこしたもので、不活化ワクチンの一種。

〈主なトキソイド〉

ジフテリア、破傷風など。

次に違う種類のワクチンを接種する場合は6日以上間隔をあけます。

#### ワクチンについて、ちょっと気になるQ&A

Q. 予防接種をすれば、その病気になることはないのですか？

A. 予防接種した多くの方がその病気に対する免疫(抗体)を獲得しますが、その効果は必ずしも100%ではありません(抗体を得ると病気の重症化を防ぐことはできます)。しかしながら、ワクチンを接種したにもかかわらず抗体が得られなかったり、抗体が得られたにもかかわらず、その後抗体が低下してその疾患に感染、発症することがあります。



Q. 生ワクチンを接種すれば、効果はずっとありますか？

A. 以前は生ワクチンの接種で獲得した免疫は終生続くと考えられていましたが、最近では野生株のウイルスに接触する機会が少なくなり、一度獲得した免疫が低下してしまうことがあると分かってきました。しかしこの場合には追加接種を行い、免疫を高めることができます。

## インフルエンザワクチン[季節性]

Q. どうして毎年接種するの？

A. インフルエンザウイルスは毎年のように変異しながら流行するので、ワクチンはそのシーズンの流行するウイルスを予測して作られています。また、インフルエンザワクチンの発症予防効果はおおよそ5カ月程度とされていますので、前年と同じワクチンであっても次の年のワクチン接種が必要ないということにはなりません。

Q. いつ頃接種すれば効果的ですか？

A. 季節性インフルエンザの国内流行は通常12月から翌年3月頃なので、これに備えて11月末までには接種が終わっていることが効果的といえます。

Q. 接種して、どれくらいで予防効果がでるの？

A. おおよそ2週間後です。



## 肺炎球菌ワクチン

Q. 肺炎球菌感染症って、どんな病気？

A. 肺炎球菌によっておこる病気で、小児では脳を包む髄膜が炎症をおこす細菌性髄膜炎や菌血症、肺炎、中耳炎などをおこします。また、高齢者や慢性呼吸器疾患がある人は肺炎球菌による重症の肺炎になることが多いことが知られています。

\* 肺炎球菌ワクチンの恩恵 \*

肺炎球菌ワクチンは肺炎球菌の保菌者を減らします。したがって、ワクチンを接種することにより、家族や周囲の人への感染（具体的には、保育園・幼稚園・介護施設での集団感染や、家庭内(祖父母⇄孫)での感染)を予防できます。

## トピックス

平成24年9月よりポリオの予防接種が生ワクチンから不活化ワクチンに切り替わります。

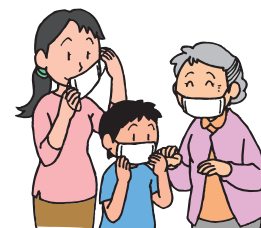
…詳しくは厚生労働省ホームページをご覧ください。

【<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/polio/index.html>】

## 予防接種以外の感染予防

うがい・手洗い・マスクをしましょう

- ・ **うがい**によって、のどの粘膜に着いたウイルスや細菌を追い出すことができます
- ・ 外から帰ったら、必ず**手を洗い**ましょう
- ・ **マスク**をすることで周囲の人の咳・くしゃみの飛沫をある程度吸い込まずに済みます
- ・ **咳エチケット**で周囲の人への気配りもお忘れなく



## 地域医療懇話会を開催しました

～第16回大阪船員保険病院地域医療懇話会～

去る6月30日(土)、弁天町のホテル大阪ベイタワーにて第16回地域医療懇話会を開催いたしました。

今回で16回を迎えました懇話会は、大阪市港区とその近隣の地域で開業されている先生方に当院のことを知っていただき、さらに率直なご意見などもお聞かせいただいで円滑な医療連携、地域への医療貢献を目的に毎年開催させていただいております。

大変お忙しい中、また当日はお足下の悪い中、港区を始め近隣地域の先生方にご出席いただきましたことを深く御礼申し上げます。

第一部の当院からの診療紹介では竹林耳鼻咽喉科医長による「アレルギー性鼻炎の外科的治療と簡易嗅覚検査について」、五福外科部長による「消化器がんの低侵襲治療」の2題を発表させていただきました。

続いて特別講演といたしまして、兵庫医科大学から内科学呼吸器RCU科主任教授、中野 孝司先生をお招きして「呼吸器疾患の病態と画像診断」をご清聴いただきました。

第二部懇親会では、短い時間ではございましたが先生方から直接色々なお話をお伺いすることができ、大変貴重な機会となりました。

これからも大阪船員保険病院は地域の先生方、皆様方に信頼される病院となるよう、院長以下職員一同、努力して参る所存でございます。

今後ともよろしく願いいたします。

地域医療連絡室

### 懇話会の様子



診療科講演  
耳鼻咽喉科医長 竹林 宏記



特別講演  
兵庫医科大学内科学呼吸器RCU科  
中野 孝司 教授



懇親会

発行

大阪船員保険病院／地域医療連絡室

〒552-0021 大阪市港区築港1-8-30

TEL 06-6572-5721(代表) FAX 06-6572-6713

[http://www.sempos.or.jp/ohsaka/renkei/renkei\\_tayori.html](http://www.sempos.or.jp/ohsaka/renkei/renkei_tayori.html)

